

揺らぐ大地 揺るぎなき伝統

- ✓ 南海トラフ地震の脅威に晒されている愛媛県岩松地区（町並み保存地区）で、被災後の復興を検討する実践型演習に参加。景観保護のために地震・津波対策工事が制限される中で、迅速な避難が求められている課題に直面
- ✓ ①住民と観光客が集う拠点施設の提案、②被災後の迅速な復興のための制度提案、③避難訓練型の街歩きツアーの3つを実施



津波による浸水被害想定

課題

景観を守るために地震・津波の対策工事が制限されている

避難・復興時に協力すべき住民同士の交流が弱まっている

方針

建物の強化

コミュニティの強化

関係人口の創出

実施

住民と観光客が集う拠点の提案

被災後の迅速な復興のための制度提案

避難訓練型の街歩きツアーの実施

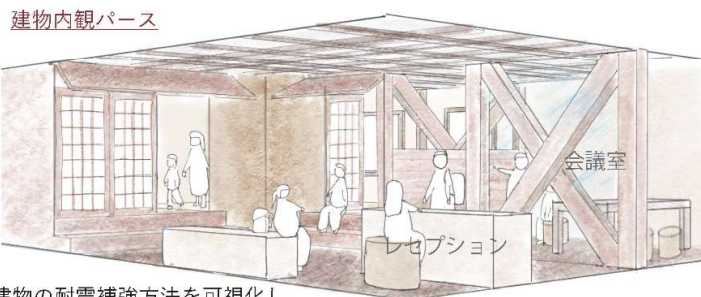
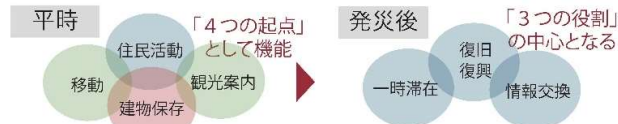
揺らぐ大地 揺るぎなき伝統

- 津波の浸水想定区域外に伝統工法を用いた拠点施設を提案し、平時は住民と観光客が集い、発災後は復旧復興の中心となるような機能を配置
- 行政・有識者・観光客を交えつつ、住民が主体となり運営を行うスキームを提案

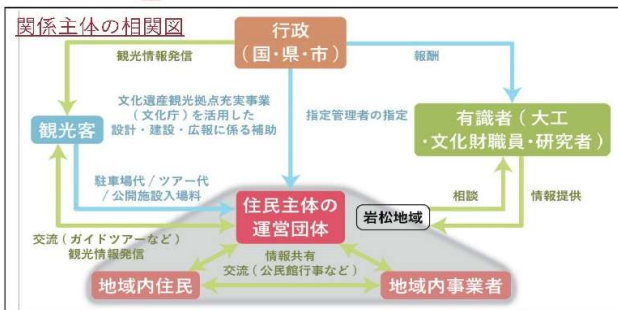
【A：空間提案】 観光拠点+防災拠点として、まちのネットワークの中心を作る。



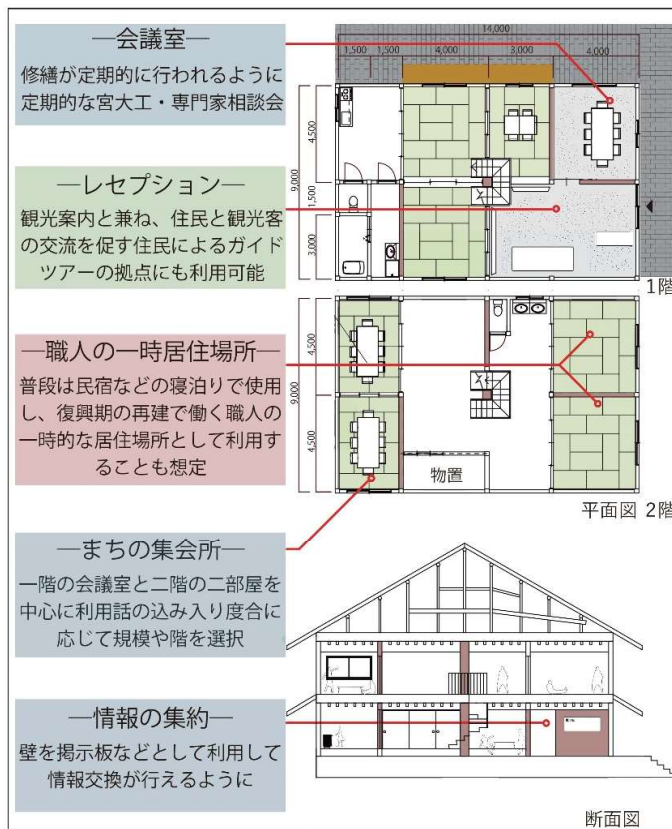
拠点施設は岩松地域の中心地、最大想定津波を免れる高所
防災広場は拠点機能を支え、高密度地域に緑の空隙をもたらす



建物の耐震補強方法を可視化し、まちの中で持続的に修繕・補強を進めていくことを念頭に、住民へ補強方法を周知/補強への動きかけを促す



平面図

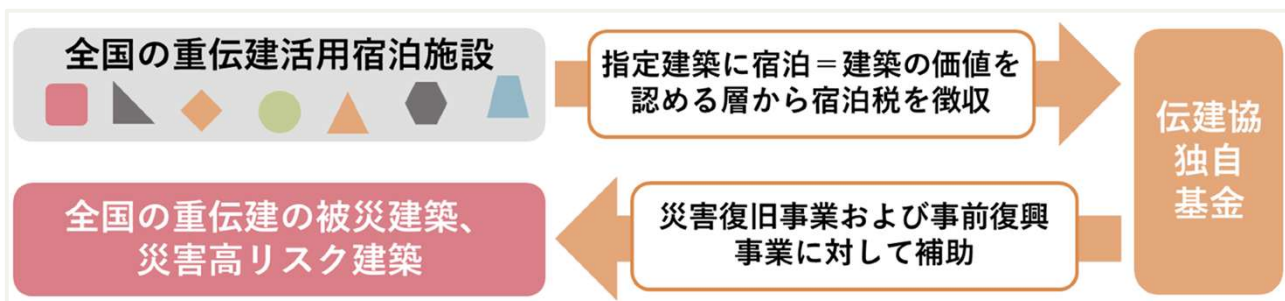


揺らぐ大地 揺るぎなき伝統

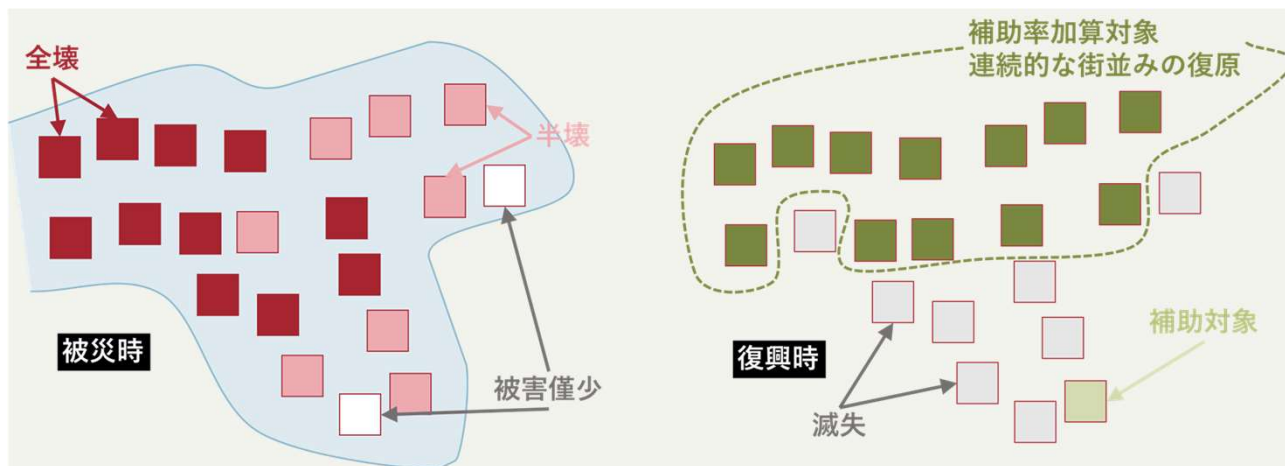
- ・ 災害を経ても建築・景観を維持するために、都市計画に関する法律・事例の知識を活かして制度を提案
- ・ ①全国の町並み保存地区（重伝建地区）共通の空き家バンクの構築、②宿泊税を活かした重伝建地区共通の基金の設立、③景観復原のために隣接する複数軒がまとめて再建/修繕を行った場合の補助率の加算 など



① 共通空き家バンクの構築



② 共通の基金の設立



③ まとめて再建/修繕を行った場合の補助率の加算

伝統の継承と災害への警鐘 ～まちの歴史とリスクを知るツアー～

- ・ 防災ツアーの参加経験をもとに、避難訓練を組み合わせた街歩きツアーを企画。伝統建築への理解促進と防災意識向上の両方を意図
- ・ 前半はガイドの方に案内してもらいつつ地区内の伝統建築を巡り、後半は想定災害を避けつつ、高台の避難場所まで向かう、実践形式の避難訓練を実施

東大復興デザインスタジオ津島岩松班ツアー 建築と景観（前半）パート説明資料 ガイドの方に案内していただく4か所の建築について簡単にまとめました。

小野商店



建築年代
中庭を含むが1棟構成。
明治期と伝わる。戦後に大改修を実施。

用途
1階は店舗（酒販業）で、候場や和室が配置。2階は客室で、田の字型に和室が配置。

建築の特徴と歴史
古くから酒販業を営む町家で、主屋から中庭、奥の付属建物まで一連の構成が特徴的。戦後の改修により外観は土蔵風になったが、内部には当時の使用形態がしっかりと残っている。意匠はベンガラ塗りの梁や垂木、青海波模様の欄間、出格子付きの窓が特徴的。

内山商店



建築年代
主屋、醤油蔵、酢蔵、離れ、作業場棟の5棟構成。
醤油蔵・酢蔵は明治期で解体済。主屋・離れは昭和初期。

用途
主屋は1階の醤油販売店と2階の客室敷で構成。離れは居住用として利用。

建築の特徴と歴史
昭和初期に洋風の意匠を取り入れた主屋が建設され、醸造業を支える町家として機能していた。特徴的な意匠としては、正面の洗出しによる装飾、防火性を考慮した鉄板張りの窓や高い外壁、ベンガラ塗の円柱、統一された手すり意匠。

小西本家



建築年代
現在は離れとクラの2棟が残る。
離れは明治期と伝わる。クラはそれ以前。

用途
離れは客間や居住空間として使用。
クラは物置や貯蔵庫として使用。

建築の特徴と歴史
ナカノヘヤは木造二階建てで座敷に床の間があり、一階の4色の色ガラスを用いた建具が特徴的。改修により天井が比較的高い形態になっている。クラは木造平屋で、川側の蔵造りと内側の真壁造りの2つの仕上げが混在。かつては現在より長大だったが、南側が切断された。

阿部邸



建築年代
主屋、カマヤ棟、浴室便所棟、土蔵の4棟構成。
主屋は明治40年頃。

用途
酒造業を営む蔵元で奥に住居が続いていた。
廃業後、酒蔵は建材倉庫に転用された。
主屋は今年改修されシェアスペースとなった。

建築の特徴と歴史
主屋は2階建てで、舟底天井が特徴。台風対策のため高さを抑えた設計で、船大工技術を反映。外観は縦見板張りや防火用白漆喰仕上げの組み合わせ。
下屋を支える持送り板や、出格子の多用も特徴。



想定災害の説明



後半部の想定災害

想定災害の説明パネル



伝統建築の説明

前半部の説明資料



火災発生
(2024年 能登半島地震)

火災発生

- ・ 岩松地区南側で火災が発生し、大倉ふとん店裏側の避難場所にも煙が到来する可能性がある。より北側の避難場所を目指す必要がある。
- ・ 木造建築が多い重伝建区域は火災リスクが高く、消火栓や防火水槽の整備など対策が必要。
- ・ 津波警報が発令されている場合、避難により初期消火が遅れ、火災被害が拡大してしまう恐れがあり、判断が難しい。
能登地震時に輪島市中心部では初期消火がうまくいかず、4.8haが焼失してしまった。